

2009年度の事業一覧

A 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

▶教師研修事業

1. 大連市中高校日本語教師研修の共催（大連）
2. 大連市中高校日本語教師訪日研修への協力

▶教師派遣事業

大連市中学校への日本語教師派遣

▶教育関係者招聘事業

大連市教育代表団の日本招聘

▶教材・資料・教案等の開発提供事業

1. 大連市中学校日本語教科書の共同編集出版
2. 遼寧省小学校日本語教科書の編集出版への協力
3. 日本事情・日本語授業案の提供サイト「くりっくにっぽん」の運営
4. 日本関連写真の提供サイト「TJF フォトデータバンク（日本編）」の運営
5. 日本語教師向け英文情報誌『Takarabako』の発行と情報提供サイトの運営
6. 日本語教師向け中文情報誌『ひだまり』の発行と情報提供サイトの運営

▶日本語教育ネットワーク事業

会合・研究会・学会等への参加・教師ネットワーク活動への協力

B 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

▶教師研修事業

1. 高等学校中国語韓国語教師研修の共催（東京）
2. 高等学校中国語教師研修の共催（長春）
3. 韓国語教師研修の共催（福岡）

▶シンポジウム等の開催事業

1. シンポジウム「日本の韓国語教育の過去・現在・未来」（仮称）の共催
2. フォーラム2009「日中韓の食文化」（仮称）の共催

▶学習奨励事業

1. 中国語を学ぶ高校生の中国短期研修の実施
2. クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会の共催

▶教材・資料・教案等の開発提供事業

1. 中国関連写真の提供サイト「TJF フォトデータバンク（中国編）」の運営
2. 中国語教師向け情報誌『小溪』の発行と情報提供サイトの運営

▶ **調査研究事業**

「高等学校の中国語と韓国朝鮮語の学習のめやす」の作成

▶ **外国語教育ネットワーク事業**

1. 教師ネットワーク活動への協力
2. 会合・研究会・学会等への参加

C **国内外の教育関係者間と小中高校生間の交流を促進する事業**

▶ **教師・学校・教育行政機関をつなぐ交流事業**

1. 日本の地域教育代表団の中国派遣
2. 日中学校交流活動への協力
3. 日米学校交流活動への協力

▶ **小中高校生をつなぐ交流事業**

1. 神奈川県の中中学生の大連派遣（教科書『好朋友』出版記念特別事業）
2. 中高校生の交流サイト「つながーる」の運営
3. 高校生の写真の提供サイト「高校生フォト フォト フォト！」の運営

▶ **交流ネットワーク事業**

1. 教師ネットワーク活動への協力
2. 会合・研究会・学会等への参加

D **TJF 広報活動事業**

1. 機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営
2. 事業報告書とリーフレットの発行
3. ウェブサイトの運営
4. 会合・セミナー等への参加・広報ネットワーク活動

2009 年度事業概要

A. 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

▶ 教師研修事業

1. 大連市中高校日本語教師研修の共催（大連）

遼寧省大連市では、歴史的・経済的背景から、中国の中でも初等中等教育における第一外国語としての日本語教育が盛んでした。しかし、近年英語教育に押され、日本語教育は危機的な状況に陥っていました。その状況を打破するために、TJF は 2005 年度に大連市を含む遼寧省の教育行政および学校長で構成される遼寧省教育代表団を招聘しました。この招聘が契機となり、大連市教育局は日本語教育を見直し、小中高校における日本語教育奨励策を 2006 年 4 月に発表しました。TJF は市教育局から要請を受け、2006 年度より中学校の日本語教師研修の共催や中学校向け第二外国語用の日本語教科書の共同編集をはじめとして、さまざまな形で日本語教育奨励策の遂行に協力してきました。2007 年 12 月には、市教育局が市政府の認可を得て、「日本語教育専用資金」の予算化を実現させました。そこで、2008 年夏から大連教育学院では、日本語教師の日本語力について評価を行うなど日本語教師の現状を把握するとともに、訪日研修を含む中長期的な日本語教師研修計画を策定しています。TJF はこうした、教師の日本語力評価や教師研修計画の策定に協力しています。

2009 年度はこの計画に沿って以下のとおり、日本語教師研修を共催します。教師の日本語力のうち、特に聴解口頭表現力を向上させることを大きな目的とします。TJF は、カリキュラムの作成に協力するとともに、日本から講師を派遣する予定です。

期間：2009 年 8 月 10 日～20 日（予定）

場所：大連教育学院

主催：大連教育学院、TJF

助成：三菱 UFJ 国際財団（申請中）

講師：日本語教育専門家 7 名、中国在住若手日本語教師 4 名（予定）

参加者：大連市の中高校の日本語教師約 100 名（予定）

2. 大連市中高校日本語教師訪日研修への協力

大連市では、前述したとおり、2006 年度から中学校の日本語教師を対象とする研修会を実施しています。この研修は、日本人専門家を招聘して大連市内で実施する形式で行われてきました。一方、英語教師には、7 週間にわたる国外での研修の機会が提供されてきました。2008 年度から、英語教師を対象とする国外研修の予算の一部が日本語教師に充当されることになり、中高校の日本語教師 4 名が日本で研修を受けられることになりました。

TJF の仲介で、大連教育学院は国際交流基金に研修を委託し、4 名は同基金が毎年日本語国際センターで実施している「中国中等学校日本語教師研修会」に参加しました。ただ、同基金の研修プログラムは大連市の希望する 7 週間に満たないため、その前後に TJF が独自の研修プログラムを実施するかたちで協力しました。

大連市教育局は 2009 年度も引き続き、国際交流基金に研修を委託し、4 名程度の中高校の日本語教師の訪日研修を実施する予定です。TJF は、この実施がスムーズに行われるよう協力します。

▶ 教師派遣事業

大連市中学校への日本語教師派遣

神奈川県教育委員会は TJF からの働きかけに応じ、2006 年度より REX プログラム*の一環として、同県の高校の国語教員を大連市内の中学校（大連市弘文学校）に派遣しています（派遣期間 1 年 8 ヶ月）。派遣教員は、派遣前に 4 ヶ月間の日本語教育の集中研修を受けた後、赴任校に着任しています。2008 年 8 月から、第 2 代派遣教員が派遣され、弘文学校だけでなく、地区内の小学校における日本語教育支援のほか、大連市内の日本語教師研修にも講師として参加するなど、2010 年 3 月までの派遣期間中の活躍が期待されています。TJF は 2009 年度も引き続き、派遣教員の現地での生活費と渡航費用を負担することで、大連市における日本語教育を支援していきます。

*REX (Regional and Educational Exchanges for Mutual Understanding) プログラム：文部科学省および地方自治体が日本の公立学校の現職の教員を日本語教師として海外の学校現場に派遣する「外国教育施設日本語指導教員派遣事業」。

▶ 教育関係者招聘事業

大連市教育代表団の日本招聘

前述のとおり、大連市の日本語教育は、英語教育に押され、日本語教育実施校数が減少していましたが、2005 年度の教育行政のリーダーの日本招聘がきっかけとなり、再び活気づきました。TJF は、大連市が推進している日本語教育奨励政策に協力するために、2006 年度と 2007 年と続けて大連市の教育局、市内各行政区の教育行政者、教育学院、校長から構成される教育代表団を招聘しました。その結果、大連市では中国初の第二外国語としての日本語教育に取り組む中学校が増えるなど、同政策は着実に進んでいます。

この状況をより発展させるために政策を推進する大連市教育局及び大連教育学院の責任者の対日理解を更に深めてもらう必要があると考え、2009 年度は次のとおり、教育代表団の招聘を実施します。

期間：2009年4月6日（月）～12日（日）（予定）

主催：TJF

助成：三菱UFJ国際財団（申請中）

招聘者：大連市教育局責任者3名、大連教育学院責任者3名、計6名。

▶ 教材・資料・教案等の開発提供事業

1. 大連市中学校日本語教科書の共同編集出版

2006年12月より大連教育学院と共同で、中国で初めての中学校向け第二外国語教育（週2時間の選択科目）用日本語教科書『好朋友 ともだち』全5冊の編集制作に取り組んでいます。制作にあたっては日中双方に編集委員会を設けています。

教科書は「人間関係の温暖化」および「多文化共生」を教育理念に掲げ、コミュニケーション志向の日本語学習と文化理解をめざしています。全5冊でストーリーが完結する書き下ろし漫画を採用し、漫画のストーリーに沿ったトピックベースの学習活動を展開しています。2007年8月に『好朋友 ともだち1』（B5判／126ページ／カラー）を5,000部、2008年3月に『好朋友 ともだち2』を6,200部出版し、2008年8月には『好朋友 ともだち3』を6,000部出版しました。これらの教科書は大連市で第二外国語として日本語教育を実施する学校26校で試用されています。

当初、第4冊は2008年度内に出版する計画でしたが、大連市教育局との協議の結果、シラバスの検討・調整をより詳細に行ってから第4、5冊の原稿を合わせて執筆し、第4冊、第5冊ともに2009年度に出版することになりました。どちらも、B5判、カラー、約130ページで、6,000部出版する予定です。全5冊の出版後は、教科書の効果的な使用方法を検討するワークショップを中国側編集委員会と協力して開催するほか、大連教育学院のウェブサイト上に設けられている日本語教師支援サイトの充実に協力することで、教師支援に力を入れていきます。また、2009年秋からは、教科書の正式版の出版を視野に入れ、教科書を試用している教師および生徒のほか、日本語教育専門家に教科書の評価を依頼し、改訂箇所を検討に着手する計画です。

事務局：大連教育学院、TJF

助成：Accenture Japan Ltd.、三菱UFJ国際財団、かめのり財団、東芝国際交流財団、尚友倶楽部（申請中）

2. 遼寧省小学校日本語教科書の編集出版への協力

中国では2001年に中国教育部より外国語教育に関する方針が発表され、小学校3年生から外国語を導入することになりました。英語を導入する学校が大勢を占める中、遼寧省では多くの小学校で日本語が開設され、小学生向けの日本語教科書が必要となりました。そ

のため遼寧省基礎教育研究研修センターは、2002年から2003年にかけて小学生向け教科書全4冊を制作し、TJFはこれに助成しました。しかし現在、中国全土で小学校1年生から外国語を導入する学校が増加しています。日本語を小学校1年生から導入するには6年間の課程をカバーする教科書を制作する必要があります。同センターでは、2008年度より全6冊シリーズの完成をめざして残る2冊を制作することになり、TJFは編集出版費用を助成しました。

同センターでは、現場教師と日本人専門家の意見を取り入れて、既刊の教科書の難易度を見直した結果、現行の第1冊よりも基礎的な内容を扱うプレ冊の制作、第1冊と第4冊の改訂を行うとともに、新しく第5冊の制作と各冊付属テープを作成することに計画を変更しました。TJFは引き続き、他の財団と協力してこれらの制作を支援します。全6冊の概要は以下のとおりです。

プレ冊:挨拶や簡単な自己紹介を絵と音声で構成(新規作成/70頁、カラー、5000部)

第1冊:挨拶、学校や家での会話(改訂)

第2冊:新入生の紹介、友達の家を訪問、子どもの遊び

第3冊:新しい先生の紹介、休みの出来事の紹介

第4冊:休みの日の出来事、日本でホームステイ、家族の紹介、昔話(改訂)

第5冊:日本の子どもが中国の学校や家庭を体験する(新規作成/70頁、カラー、5000部)

音声テープ:各冊2本

3. 日本事情・日本語授業案の提供サイト「くりっくにっぽん」の運営

いまの日本についての情報を発信すると同時に、日本語教師のための情報を発信するウェブサイト「くりっくにっぽん」を2009年1月に開設しました。「くりっくにっぽん」は二つのコーナー、「日本の文化と人びと」と「日本語のクラスアイデア」で構成されています。

「日本の文化と人びと」では、後述する、英語圏の日本語教師向け情報誌『Takarabako』と中国の日本語教師向け情報誌『ひだまり』に掲載しているシリーズ「Japanese Culture Now」「今日日本」と「Meeting People」「人物探訪」を、日本語・英語・中国語の3言語で掲載しています。前者のシリーズは現在の日本事情を、後者のシリーズは10代を中心に日本の人びとを紹介するものです。これらの記事を3言語で掲載することで、日本語教育だけでなく、中国語教育や英語教育など、さまざまな分野での活用が期待されます。

「日本語のクラスアイデア」では、これらの記事を素材として使った日本語の教室活動例を紹介しています。アイデアの執筆は、日本語教育専門家に依頼すると同時に、現場教師からも広く募っています。以前から、『Takarabako』や『ひだまり』の素材を日本語の授業で活用するアイデアを知りたいという声がありましたが、誌面に限りがあることから十分に取り上げることができませんでした。今後は、「くりっくにっぽん」で、日本語教師にとって役立つ情報を積極的に発信していきます。

4. 日本関連写真の提供サイト「TJF フォトデータバンク（日本編）」の運営

TJF では 2001 年度より日本語教育（外国語教育）や文化理解教育関係者が、無償で利用できる写真データベースをウェブサイト上で公開しています。ここでは、海外の小中高校生が関心をもつような日本の若者たちの生き方や日常生活の様子と、彼らを取り巻く日本の社会事情がわかるような写真、約 3,500 枚を掲載しています。また、日本語教育や文化理解教育での利用を想定し、教育、社会、文化、自然など 15 のテーマを設定し、写真をテーマごとに分類して、利用者が使い易いようにしています。また、2005 年には、国立国語研究所の「e-Japan（IT を活用した日本語学習環境の整備）プログラム」より助成を受けて、日本語・英語・中国語 3 言語での写真検索システムを開発しました。

利用者はウェブサイト上でメンバー登録をした後、教育目的かつ非営利目的の利用に限り無償で写真を使用することができます。2009 年 2 月現在、登録者数（日本編と中国編の合計）は、国内外あわせて 7,351 名で、そのうち 2008 年の新規登録者数は 696 名でした。2009 年度も引き続き、授業などで役立つ写真を追加していきます。

5. 日本語教師向け英文情報誌『Takarabako』の発行と情報提供サイトの運営

【A4 判／8 頁／4 色／6,000 部／No. 20（6 月）、No. 21（9 月）、No. 22（12 月）、No. 23（3 月）】

『Takarabako』は、おもに英語圏（米国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、英国など）で日本語教育、日本理解教育、国際理解教育などに携わる小中高校の教師約 4,700 名に配付している英文情報誌です。日本や日本の若者に関するテーマを取り上げ、授業で使える写真や情報などを「素材」として提供し、海外の小中高校生がこれらを通じてことばや文化、あるいは自分自身について考え、視野を広めてもらうことをねらいとしています。

2009 年度も、日本に住む小中高校生を中心に紹介する「Meeting People」と、その小中高校生に関連するテーマで日本の現代事情を紹介する「Japanese Culture Now」、TJF のウェブサイトを紹介する「Access This Page！」などを中心に誌面を構成します。また、2009 年度からは、二つのシリーズの内容に関連したクイズコーナーを新しく設けます。ウェブサイト「Takarabako」では、引き続き『Takarabako』の PDF 版を掲載します。2009 年度も引き続き、後述の『ひだまり』や「くりっくにつぼん」ウェブサイトと連携し、日本語教師に役立つ情報を発信していきます。

6. 日本語教師向け中文情報誌『ひだまり』の発行と情報提供サイトの運営

【A4 判／8 頁／4 色／1,900 部／第 39 号（6 月）、第 40 号（9 月）、第 41 号（12 月）、第 42 号（3 月）】

『ひだまり』は中国の中高校の日本語教師を対象とする中文情報誌で、約 1,600 名に無料で送付しています。日本で話題になっているトピックのなかでも海外の中高校生が興味をもつようなものを取り上げ、事物や事象面から紹介する「今日日本」（『Takarabako』の

「Japanese Culture Now」と同じ内容)と人物面から紹介する「人物探訪」(『Takarabako』の「Meeting People」と同じ内容)で誌面を構成しています。また、これらの記事に関連した日本語のクイズコラム「雑学博士」も掲載しています。「雑学博士」の問題を誌面で、解答を「ひだまり」ウェブサイトに掲載し、ウェブサイトとの連携を図っています。そのほか、「ひだまり」ウェブサイトでは、各号のPDF版を掲載するとともに、各コーナー別に閲覧できるようにしています。

2009年度も引き続き、『Takarabako』や「くりっくにつぼん」ウェブサイトと連携し、日本語教師に役立つ情報を発信していきます。

▶ 日本語教育ネットワーク事業

会合・研究会・学会等への参加・教師ネットワーク活動への協力

オーストラリアのシドニーで開催される、第8回日本語教育国際研究大会(7月13～16日)に参加します。また国内では、日本語教育学会の春季大会(2009年5月23日～24日・明海大学/千葉)および秋季大会(2009年10月10～11日・九州大学/福岡)ほか、各種日本語教育関連の研究会、研修会、会合等に参加し関係者とのネットワークを図ります。

B.日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

▶ 教師研修事業

1. 高等学校中国語韓国語教師研修の共催(東京)

TJFは2006年度から2007年度にかけて、文部科学省の委嘱をうけて、大学と高校の中国語と韓国語教員が参加するプロジェクトチームを立ち上げ、「高等学校における中国語と韓国朝鮮語の目標・内容・方法に関する研究」に取り組みました。そして、その成果として『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)』(以下「学習のめやす」、次項参照)を出版し、全都道府県の教育委員会および中国語・韓国語教育に取り組む高等学校、教師に配付しました。

現在、高校の中国語担当教員は全国で500名弱、韓国語担当教員は約300名と想定されています。2007年度から2008年度にかけて、TJFはプロジェクトチームのメンバーとともに、中国語・韓国語の教員を対象にワークショップを開くなど、「学習のめやす」を共有するとともに教員からフィードバックを得ることをめざしてきました。2009年度からは、「学習のめやす」が提案する、コミュニケーション能力育成のための新たな外国語教育の考え方を教師たちと共有し、その実践に結びつけてもらうために、中国語・韓国語を担当する

高校教員を対象とする研修を以下のとおり実施します。

期間：8月1日（土）～5日（水）

場所：桜美林大学（東京・町田市）

主催：TJF

共催：桜美林大学

特別共催：駐日中国大使館教育処、駐日韓国大使館韓国文化院（予定）

後援：文部科学省（予定）

助成：かめのり財団（申請中）

講師：中国語教育、韓国語教育の専門家のほか、英語や日本語など国内外の外国語教育の専門家

参加者：高校の中国語・韓国語担当教員 60 名（公募予定）

内容：従来の研修で評価の高かった中国語教育と韓国語教育に関する講義を継続しながら、新たに「学習のめやす」の基本となっている能力標準の考え方やコミュニケーションティブアプローチを中心とする外国語教育法、第二言語習得理論、学習者中心の教室活動、新しい評価法など、外国語教育全体を視野に入れた内容も組み込む。前半 2 日間はすべての外国語教員対象の講義内容とし、後半 3 日間は中国語と韓国語教員向けの講座を並行して開講する。

2. 高等学校中国語教師研修の共催（長春）

2004 年度より第二次日中教育交流計画の一環として、「高等学校中国語担当教員研修」が文部科学省、中国国家漢語国際推進指導グループ弁公室（以下国家漢弁）との共催で始まりました。この研修は、2008 年度をもって第一期 5 ヶ年計画が終了しました。第 4 回までは教諭と常勤講師を参加対象としていました。しかし、高校の中国語教員 500 名弱の過半数が非常勤講師であることから、最終回の 2008 年度は非常勤講師も対象に含めたところ、参加者 20 名のうち 7 名を非常勤講師が占めました。

こうした非常勤講師の中国研修に対するニーズに応えるため、2009 年度から第二期長春研修を実施することにしました。ただし、研修期間をこれまでの 23 日間から 15 日間に短縮し、自己負担額を増やすなど、実施方法を一部変更します。TJF は、これまで同様、中国側と協議しながらカリキュラムを作成するとともに、研修の広報等の事務を担当します。

期間：2009 年 7 月 26 日（日）～8 月 9 日（日）（予定）

場所：吉林大学（中国吉林省長春市）

主催：文部科学省、中国教育部、中国国家漢語国際推進指導グループ弁公室、TJF

講師：吉林大学の中国語教育専門家

参加者：日本の高校中国語教師 20 名（公募予定）

3. 韓国語教師研修の共催（福岡）

2004年度から高校や大学などの韓国語教師を対象とした韓国語教師研修を、東京と京都の2カ所で開催してきました。東京の研修は駐日韓国文化院、京都の研修は韓国国際交流財団と共催で実施しました。2007年度からは、それぞれの講師や参加者の交流を図るために、三者共催で1カ所で実施することになり、2007年度は東京、2008年度は大阪で開催しました。2009年度は福岡で実施する予定です。

TJFは2004年から事務局を担ってきましたが、回を重ねるにつれ、TJFが事業対象とする高校の韓国語教師の全受講者に占める割合が漸減してきたため、2009年度をもって事務局の役目に一区切りをつけ、前述した高校の中国語韓国語教師を対象とする研修に力を入れていきます。

期間：2009年8月6日（木）～11日（火）（予定）

場所：九州産業大学

主催：駐日韓国大使館韓国文化院、韓国国際交流財団、TJF

講師：2004年度から京都研修と東京研修に参加した講師

参加者：高校と大学ほかの韓国語教師50名（公募予定）

内容：教授法の基本を中心にカリキュラムを作成

▶ シンポジウム等の開催事業

1. シンポジウム「日本の韓国語教育の過去・現在・未来」（仮称）の共催

1998年に高等学校韓国語教師研修会を共催したことに始まり、TJFは駐日韓国文化院が実施するさまざまな事業に協力してきました。2009年度は文化院の新庁舎が5月にオープンすることを記念して、文化院と共催で、過去10年の日本の韓国語教育の軌跡を関係者とふりかえりながら、今後の韓国語教育を展望するシンポジウムを実施します。TJFは主にシンポジウムの企画、広報、プログラムの進行を担当します。

期日：2009年11月8日（日）（予定）

場所：駐日韓国大使館韓国文化院ホール（東京）（予定）

主催：駐日韓国大使館韓国文化院、TJF

2. フォーラム2009「日中韓の食文化」（仮称）の共催

2002年度以来、駐日韓国文化院と合同で公開シンポジウムを企画、運営してきました。2006年度から駐日中国大使館教育処の共催も得て、毎回一つのテーマを取り上げ、日中韓の共通性や相違性、つながりを探ってきました。2007年度は「民話」、2008年度は「食」を取り上げました。2009年度は、2008年度に引き続き食文化をテーマに日中韓における「お

酒」を取り上げ、「フォーラム 2009」を開催する予定です。

▶ 学習奨励事業

1. 中国語を学ぶ高校生の中国短期研修の実施

TJF は 2007 年度、国家漢弁との共催で、中国語を学ぶ高校生のために初めて中国短期研修プログラム「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」を北京と大連で実施しました。2008 年度の第 2 回は、北京オリンピックの開催による制約が多かったため、大連一カ所で開催しました。2009 年度は第 3 回を北京で開催する予定です。

前二回と同様、実用的なコミュニケーションを重視した中国語の研修と現地の同世代との交流をこの研修プログラムの二本柱とします。前 2 回では、交流相手を日本語学習者に設定したために、日本語での交流が多くなったことを踏まえ、日本の高校生が中国語を使う必然性を高めるために、第 3 回は日本語を学習していない高校生との交流も設定します。その際、中国語力が高くない参加者も交流の成果を得られるように、植樹などの社会貢献活動を共同で行ったり、課題に取り組んだりするようなプログラムを組み、交流の内容を充実させます。

期間：2009 年 7 月 25 日（土）～ 8 月 3 日（月）

場所：北京市内の大学（北京市、予定）

主催：中国国家国際漢語推進指導グループ弁公室、TJF

後援（予定）：駐日中国大使館教育処、在中国日本国大使館

講師：研修担当機関の中国語教育専門家ほか

参加者：日本の高校で中国語を学ぶ高校生 92 名、引率教師等 8 名、計 100 名（公募予定）

内容：中国語の研修、研修地の見学と文化体験、現地の高校生との交流

2. クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会の共催

2008 年度に第 1 回、第 2 回のクムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会を、クムホ・アジアナ文化財団、駐日韓国文化院、日中韓文化交流フォーラム、TJF の共催で開催しました。この大会では、韓国語スピーチ部門、韓国語スキット部門（韓国語の台本を暗記し二人で演じる）のほかに、日本語エッセイ部門（1,000 字以上 1,200 字以内のエッセイに韓国語の単語を一つ以上入れる）を設けました。第 1 回大会は 494 名、第 2 回大会は「話してみよう韓国語」地方大会の高校生スキット部門の応募者を含め 481 の応募がありました。3 部門の中で、日本語エッセイ部門への応募は多く、韓国語を学んでいなくても、韓国語や韓国の文化に関心をもつ多くの高校生が大会に参加しました。

2009 年度は第 3 回クムホ・アジアナ杯（本選：2010 年 3 月下旬予定）が開催されます。これまで TJF が務めてきた事務局は、第 3 回からクムホ・アジアナ文化財団に移行されま

すが、TJF は引き続き、共催団体として同大会に関わります。

本大会で設けられている韓国語スキット部門はもともと、2002 年度に始まった初級学習者のためのコンテスト「話してみよう韓国語」で設けられた部門でした。第 2 回の大会から、「話してみよう韓国語」地方大会の高校生スキット部門の最優秀賞を受賞したペアが本選に出場できるようになるなど、両者で連携しています。TJF は「話してみよう韓国語」地方大会（9 地域で開催予定）にも引き続き後援団体として協力し、高校生の部の入賞者に副賞として図書券を贈ります。

▶ 教材・資料・教案等の開発提供事業

1. 中国関連写真の提供サイト「TJF フォトデータバンク（中国編）」の運営

TJF では、2004 年 9 月よりウェブサイト「TJF フォトデータバンク中国編」を開設し、中国語や中国理解の授業や教材作成に役立ててもらうための写真ライブラリーを公開しています。2009 年 1 月現在、小中高高校生を中心とする中国の人々の日常生活や文化習慣に関する写真を中心に約 2,000 枚掲載しています。また、2005 年には、国立国語研究所の「e-Japan（IT を活用した日本語学習環境の整備）プログラム」より助成を受けて、日本語・英語・中国語 3 言語での写真検索システムを開発した結果、日本語と中国語（漢字とピンイン）で写真を検索できるようになりました。利用者はウェブサイト上でメンバー登録をした後、教育目的かつ非営利目的の利用に限り無償で写真を使用することができます。

2009 年度は引き続き、写真を追加するとともに、トップページに掲載している「注目の 1 枚」も毎月更新していきます。また、2007 年 3 月に発行した『高等学校における中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす』や現在高校でもっとも多く使用されている教科書で取り上げられている話題・場面・文化領域、各カテゴリーで必要とされる写真が掲載されているかどうか、そのバランスはどうかなどを分析し、今後の収集計画を立てるとともに、TJF が実施する高校中国語教師研修の機会などを活用して積極的に広報を行い、本データバンクが中国語教育現場でより活用されるようにします。

2. 中国語教師向け情報誌『小溪』の発行と情報提供サイトの運営

【A4 判 / 4 頁 / 2 色 / 1,000 部 / 40 号（4 月）・41 号（7 月）・42 号（10 月）・43 号（1 月）】

『小溪』は、中国語教育に取り組む日本の高校約 700 校の中国語教師や関係者を対象に発行している情報誌です。「小溪」ウェブサイトでは、この情報誌の一部をシリーズごとに閲覧できるようにするとともに、中国語教育に関する最新の情報や Q&A、中国の高校生の生活を紹介する写真などを掲載しています。

2009 年度からは、『高等学校における中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす』で提案した

コミュニケーション能力指標に基づく単元案や授業案の概要の紹介と小溪ウェブの活用法の紹介コーナーを中心に誌面を構成します。誌面で紹介する単元案や授業案の詳細や、ワークシートなど授業で使用する素材は「小溪」ウェブサイトに掲載し、情報誌とウェブサイトの連携を図ります。情報誌は前年度までの8ページから4ページ構成にしますが、ウェブサイトをより充実させることに力を注ぎ、多くの教師にウェブサイトを活用してもらえるようにします。

▶ 調査研究事業

「高等学校の中国語と韓国朝鮮語の学習のめやす」の作成

前述のとおり、2006年度から2007年度にかけて、文部科学省の委嘱事業として、大学と高校の韓国語と中国語教員が参加するプロジェクトチームを立ち上げ、外国語教育の目標・内容・方法を研究し、2007年3月に研究成果をまとめた冊子『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす（試行版）』（以下「学習のめやす」）を出版しました。

「学習のめやす」では、コミュニケーションアプローチに基づく can-do-statement の考え方を導入し、具体的なコミュニケーション能力の学習目標を提案しました。これらの指標は授業の組み立てだけでなく、教材開発や教師研修の内容を検討する際の共通の土俵となるものです。

2009年度から2010年度にかけて、現在の試行版の見直しや補充を行うとともに、年間指導計画案や授業案などを収集します。また、中国語および韓国語教育に特に積極的に取り組んでいる大阪府の教育委員会と協力して、「学習のめやす」で提案したコミュニケーション能力育成をめざす実践例（授業案、単元案、年間指導計画、評価）の開発と集積に取り組むほか、全国の教師からフィードバックや教育実践を集めていきます。

また、「学習のめやす」試行版を作成する時点で課題となっていた評価方法について、海外各国の外国語教育における先進事例を研究しながら、現行のコミュニケーション能力指標に評価の基準を加えていく予定です。

▶ 外国語教育ネットワーク事業

1. 教師ネットワーク活動への協力

(1) 高等学校中国語教育研究会の活動への協力

TJFは2003年度から高等学校中国語教育研究会*の事務局を担当し、年一度の全国大会や同研究会が実施する事業の企画立案と運営に参画しています。2009年度も、6月20、21日に岡山で開催予定の全国大会をはじめ同研究会の事業に協力します。また、研究会の各支部が主催する中国語学習発表会などを後援するとともに、副賞として書籍を寄贈します。

* 高等学校中国語教育研究会：中国語教育実施校が全国で十数校しか確認されていなかった1982年に、高校中国語教員の有志により設立された教師のネットワーク。2008年度現在の会員は約210名。北海道、関東、北陸、東海、関西、中国四国、九州、沖縄の8つの支部がある。

(2) 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの活動への協力

1997年から1998年にかけて実施した高等学校における韓国朝鮮語教育の調査がきっかけとなって、1999年に高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク（JAKEHS）が発足しました。それ以後、全国研修への助成をはじめ、高校向け教科書の制作への協力など、JAKEHSが実施するさまざまな事業に協力してきました。設立10周年を迎える2009年度も引き続き、JAKEHSが主催する全国研修などの事業に協力します。

* 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク：JAKEHSはJapan Association for Korean-language Education at High Schoolsの略称。1999年に設立された韓国朝鮮語教師ほかが参加する任意団体。2008年度現在、会員約150名で、東・西・南の各地域ブロック別に活動を展開している。TJFはその設立から関与し、事務局を2004年度まで担当した。

2. 会合・研究会・学会等への参加

日本国内の中国語・韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加しネットワークを強化します。中国語関係では、高等学校中国語教育研究会、中国語教育学会ほかの全国大会や会合に参加します。韓国語関連では、JAKEHSや朝鮮学会、朝鮮語教育研究会、朝鮮語研究会ほかの研究会等に参加し、関係者とのネットワークを維持、拡大します。また、大学での、韓国語の教員免許取得のための集中講座（第3期、2010年度～）の開講に向けて、関係機関に働きかけを行います。また、言語政策学会年次大会（6月、昭和女子大学/東京）をはじめとする、外国語や言語政策に関連する会合に参加し、関係者とのネットワークを図ります。

C. 国内外の教育関係者間と小中高校生間の交流を促進する事業

▶ 教師・学校・教育行政機関をつなぐ交流事業

1. 日本の地域教育代表団の中国派遣

TJFはこれまで、高校の中国語教師とともに、教師研修、教材開発など、高校中国語教育が抱える課題の解決に取り組んできました。今後、高校中国語教育を定着させ、さらに裾野を広げるためには、各都道府県の教育行政者や学校の管理職の後押しが必要だと考えています。そこで、国家漢弁の協力を得て、中国語教育に積極的に取り組んでいる地域の教育行政者および中国語教育実施校、あるいは中国理解教育や中国との交流に関心をもつ学校の管理職に中国を訪問してもらい、中国の教育現場を視察するとともに、中国の教育

行政者や日本語教育実施校の管理職と交流するプログラムを実施することにしました。

2008年度はプログラムの第1回として、中国語教育がもっとも盛んな神奈川県を対象にしました。神奈川県庁の私学振興課および神奈川県私立中学高等学校協会の協力を得て参加者を募り、同協会の会員校9校の理事長、校長などの管理職を中心に14名を中国に派遣しました。訪問先は同県と友好関係にある中国遼寧省の大連市とし、大連市の教育局をはじめ、市内の日本語教育実施校を訪問したり、日本の学校との交流を希望している日本語教育実施校の校長たちとの交流会に参加してもらいました。今回の訪問により、参加者の中国に対する理解が深まっただけでなく、中国の学校との交流に対する関心がますます高まりました。

2009年度は同地域を対象に2回目の派遣を実施し、学校間交流と中国語教育への取り組みに発展させたいと考えています。

期間：2009年12月23日（月）～26日（木）

場所：中国遼寧省大連市

主催：中国国家漢語国際推進指導グループ弁公室

実施：TJF

協力：財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

参加者：中国語教育および中国理解教育実施校、中国との交流に関心の高い学校の理事長、校長等の管理職、教育行政者、引率者、計20名程度

2. 日中学校交流活動への協力

TJFは2004年度より日中の学校間交流の橋渡しを行ってきました。中国側は日本語教育を実施している学校、日本側は中国語教育を実施している、もしくは国際理解教育を重視している学校を橋渡しの対象としました。日本語教育が盛んな遼寧省の学校との交流については、2005年度より交流の橋渡しと教育代表団の招聘を連動させて、学校の交流責任者の往来の機会を増やすことで交流の継続と活性化を図ってきました。2008年度には、日本の中学校と交流をしている大連三十中学の教師と生徒が学校の研修旅行として訪日した際、日本での交流プログラム実現に協力しました。2009年度も中国側交流校の訪日が予定されているので、TJFは日本での交流プログラムの企画などの面で協力します。

2008年11月に、北京市教育委員会の直属機関である北京市国際教育交流センター（BIEE）の要請により、北京市郊外各区の教育行政のリーダーおよび各区が管轄する小中高校の校長などからなる北京市教育代表団一行24名の受け入れに協力しました。日本の教育現場を視察し、今後の学校間交流の可能性を模索することが来日の目的でした。代表団一行の対日理解が促進され、今後日本の中国語学習者との交流の受け皿になることが期待されます。同時に、この代表団の受け入れに協力することは、中国での日本語教育の裾野を広げるための種蒔きでもあると考えています。BIEEは2009年度も前年度と同規模の教育代表団を日本に派遣することを予定しています。TJFは引き続き、代表団の受け入れに協力します。

3. 日米学校交流活動への協力

TJFは1990年前後から米国ではウィスコンシン州を重点地域として、ガイドラインの作成、教材・副教材の寄贈、若手日本語教師の派遣など、小中高校における日本語教育を支援するとともに、2000年前後より日本語教育を実施する同州の学校と日本の学校との交流の橋渡しを行ってきました。学校交流は日本語学習の大きな動機づけとなるとともに、日本の学校における米国理解および英語教育、ひいては両国の小中高校生の相互理解の促進につながっています。

日本語教育支援事業の中でも、同州の教育庁が90年代に発行した幼稚園から高校までの日本語教育カリキュラムガイドライン(TJF助成)は全米の日本語教育関係者の注目を浴び、小中高校における日本語教育の実績としては後発であった同州が、米国内の初等中等教育における日本語教育の拠点州の一つになる土台となりました。とりわけメナーシャ市では、同ガイドラインをうけて米国でも稀有な学区指定の小中高校一貫日本語教育カリキュラムを作成し大きな成果を挙げてきました。昨年は、同カリキュラムで幼稚園から高校まで日本語を学び、大学の日本語専攻学科を卒業した初めての学生が誕生した年となりました。

しかし近年、世界的な中国への関心の高まりと中国政府による中国語の世界的普及政策と相まって、米国でも中国語教育が広がっています。それに押され、日本語教育は米国においても下降線を辿っており、日本語に中国語がとってかわった地域が現れています。TJFとしてはこれまでに協力してきた初等中等教育における日本語教育や日本の学校との交流の存続および発展をめざし、改めて教育行政や学校に働きかけていきたいと考えています。

そこで2009年度は、州内の拠点地域である上述のメナーシャ市の学区の教育次長兼教科カリキュラム委員長ほかを日本に招聘し、日本の教育、文化、社会に対する理解を深めてもらうとともに、交流相手である日本の学校を視察訪問してもらう予定です。同市の日本語教育に改めて目を向けてもらうことにつながることを期待しています。

学校交流については、すでに樹立しているメナーシャ市と群馬県前橋市の姉妹都市関係、都立大崎高校とメナーシャの高校間の高校生相互訪問、千葉県富里市とメクオン市、愛媛県新居浜市とフランクリン市の学校交流をフォローしていきます。富里市の中学生と大崎高校の高校生がメクオン市を、新居浜市の中学生がフランクリン市をそれぞれ訪問する予定です。

▶ 小中高校生をつなぐ交流事業

1. 神奈川県の中学生の大连派遣（教科書『好朋友』出版記念特別事業）

TJFが2006年より大连教育学院と共同で編集制作に取り組んできた、中学校向け第二外国語教育用日本語教科書『好朋友』全5冊が2009年度に完成します。2009年度は教科書制作プロジェクトの助成団体でもあるかめり財団の委託を受け、『好朋友』の完成を記念して、以下のとおり日本の中学生8名を大连に派遣します。なお、5冊の教科書に掲載さ

れているストーリー漫画の主人公は父親の転勤に伴い大連に住むことになった横浜の中学生であること、大連のある遼寧省が神奈川県と友好関係にあることを考慮し、今回派遣する中学生は、神奈川県を対象に募集します。

この事業に参加する日本の中学生には、大連を訪問し、同世代の中学生をはじめ中国の人たちと交流したり、大連を見学することを通して、中国の人々や中国文化に対する理解を深めてもらうことをめざします。また、日本の中学生を受け入れる『好朋友』で日本語を勉強している大連の中学生には、日本の中学生との交流を通して、自分たちが学んできた日本語を使う機会を提供するとともに、日本の人々や日本文化に対する理解を深めてもらいたいと考えています。

期間：2009年11月中、6泊7日

主催：TJF（かめのり財団委託事業）

協力：大連市教育局

訪問先：大連市

参加者：神奈川県在住中学生8名、引率教師1名、事務局2名

2. 中高校生の交流サイト「つながーる」の運営

2007年11月に開設した「つながーる」は、SNS（Social Networking Service）を利用したコミュニケーションのためのウェブサイトで、おもに国際理解や国際交流に関心のある世界の中高校生、海外の日本語学習者、日本の外国語学習者（英語、中国語、韓国語）を対象としています。「つながーる」に登録した参加者は、自分のページをつくって、日々考えていることや発見したことなどを、エッセイや写真などで発信し、それに対してほかの参加者からコメントを受け取ることができます（「マイページ」）。そのほか、参加者に関心のあるテーマについて議論を深める場（「コミュニティ」）も用意しています。日本語、英語、中国語、韓国語など、多言語での閲覧や書き込みが可能です。また、参加者の安全とプライバシーを守るために、メンバー登録に際して本人確認を行い、保護者の同意を得るほか、参加者のエッセイやコメントなどに個人情報や不適切な表現が含まれていないかウェブサイトに掲載する前にチェックするなど十分な配慮をしています。

2009年2月現在、日本、オーストラリア、カナダ、韓国、中国、ニュージーランド、米国など13カ国・地域の中高校生約900名が参加し、日々の個人的なできごとや、お互いに関心のあるテーマについてやりとりをしています。

また、日本の外国語教育や国際理解教育、海外の日本語教育に「つながーる」を利用してみたいという教師からの問い合わせも多く、現在、52名の教師が「つながーる」を授業や課外活動と組み合わせて使っています。

2009年度は、前年度に引き続き、より多くの中高校生に参加してもらえるよう国内外で積極的に広報活動を行います。また、「つながーる」を使った交流の内容を深めていくために、国内外の教育関係者数人の協力を得て、国際理解教育、海外の日本語教育、国内の外国語

教育などの分野で「つながる」を利用してもらい、そのプロセスや成果、課題などをフィードバックしてもらおう予定です。その結果は、TJFの今後の「つながる」運営に具体的に反映させていくほか、「つながる」に関心のある教育関係者と共有し、さらに「つながる」の内容を深めていくきっかけとしたいと考えています。また、メンバーにとって使いやすいウェブサイトをめざし、引き続きレイアウトやシステムの改良も行います。

3. 高校生の写真の提供サイト「高校生フォト フォト フォト！」の運営

TJFのウェブサイト内にこれまで、「高校生のフォトメッセージコンテスト」(TJFが1997年から10回にわたって開催したコンテストの入賞作品を約200点掲載)、「The Way We Are: Photo Essays of Japanese High School Students in Japan」(高校生のフォトメッセージコンテストの入賞作品から厳選した約100作品の写真とエッセーを英語で掲載)、「Focus on Japan 2007」(世界の高校生が訪れた日本の4都府県の人々と暮らしを写真と文章で表現した作品を掲載)などを設け、日本の高校生の素顔や日常の暮らしを写真などで紹介してきました。

2008年度は、これらの三つを統合した新しいウェブサイト「高校生フォト フォト フォト！」を開設しました。この新しいサイトには、新たに二つのコーナーを設けました。全国の高校写真部の最新の作品を随時掲載する「高校生写真ギャラリー」と、「よみうり写真大賞」(読売新聞社主催)高校生部門の「フォト&エッセーの部」(前述の「高校生のフォトメッセージコンテスト」の主旨を継承して2008年に新設された部門)の入賞作品を掲載するコーナーです。2009年度はこの二つのコーナーに随時新しい写真を掲載していきます。

▶ 交流ネットワーク事業

1. 教師ネットワーク活動への協力

国際教育活動ネットワーク／REX-NET(以下、REX-NET)は、REXプログラムの参加教員が中心となって2004年4月に発足した団体です。REX-NETは、国際教育・外国語教育・日本語教育を柱に、おもに国内外の小中高校生の教育に貢献することを活動の目的としています。TJFは、引き続き、ウェブサイトおよびメーリングリスト運営の一部をサポートするとともに、外国語教育、日本語教育、国際理解教育の分野で活動している教師とのネットワークを形成し、TJFの事業との連携をめざします。

2. 会合・研究会・学会等への参加

異文化間教育学会や国際理解教育学会の全国大会等に参加し、外国語教育、日本語教育、国際理解教育の分野で活動している教師とのネットワークを形成し、TJFの事業との連携をめざします。

D. TJF 広報活動事業

1. 機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営

【A4判／16頁／2色／5,000部／82号（4月）・83号（7月）・84号（10月）・85号（1月）】

『国際文化フォーラム通信』は、おもに初等中等教育における日本の外国語教育（中国語・韓国語・英語教育など）・国際理解教育・海外の日本語教育の関係者、文化交流団体、報道関係者、TJF と関わりのある機関や個人、一般の希望者などに配付しています。TJF の活動を紹介すると同時に、各事業に関連するテーマを特集に取り上げ、TJF の理念や考えを読者と共有することをねらいとしています。2009 年度も各事業をさまざまな角度から客観的にとらえながら、TJF のめざす方向性を提示するとともに、10 年続いたシリーズ「見る聞く考えるやってみる授業」に代わり、TJF ウェブサイトのコンテンツを紹介するシリーズを開始し、TJF の事業についてより広く知ってもらうと同時に、新たな読者を開拓します。

「機関誌」ウェブサイトでは、2009 年度も引き続き、『国際文化フォーラム通信』のバックナンバーを PDF 形式で掲載します。

2. 事業報告書とリーフレットの発行

2008 年度に行った各事業の詳細な報告をまとめた事業報告書を日本語と英語で作成します。日本語版は従来どおり、印刷物として発行するとともに、PDF 版をウェブサイトに掲載します。英語版については、対象とする読者が英語圏であり、インターネットが普及していることから、印刷物として発行せず、ウェブサイトでのみ掲載します。

また、広報出版物として、三つ折りリーフレットを日・英・中・韓 の 4 言語で作成します。

3. ウェブサイトの運営

TJF ウェブサイトをより多くの人に活用してもらうため、2009 年度はまずコンテンツがよくわかるようにトップページのデザインを一部変更します。さらに、現在は日・英の 2 言語での表示ですが、中国語・韓国語を加え、4 言語での表示にします。財団概要、事業概要、事業報告、収支決算などのコンテンツを中国語・韓国語で掲載するとともに、中国語と韓国語で表示されるページにリンクします。

また、TJF ウェブサイト内に設けている各サイトについても、それぞれ更新するとともに、内容をより充実させます（各事業ウェブサイト制作運営の頁参照）。

4. 会合・セミナー等への参加・広報ネットワーク活動

広報の手段となる出版・ウェブサイト関連のセミナーに参加して情報収集を図るなど、より効率的な広報活動をめざします。